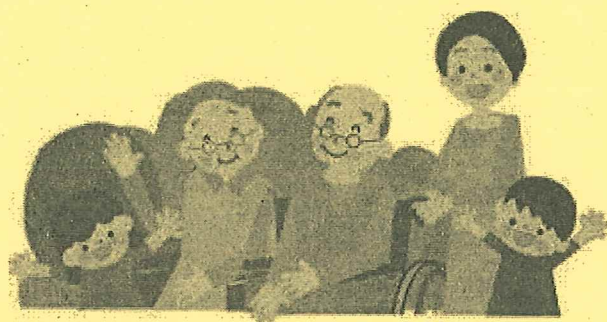


藤崎中央小学校



ぼくのひいおばあちゃん

藤崎中央小学校 四年

安原 蓮

ぼくのひいおばあちゃんは、今年百才のたん生日をおかえしました。ぼくは家族全員で、おばあちゃんのたん生日をお祝いする会をやりました。おばあちゃんが待っている部屋に行くと、おばあちゃんはピンク色のぼうしとピンク色の服を着ていました。とってもきれいな衣装になっていて、びっくりしたけど、おばあちゃんにはニコニコしていました。

お祝い会には平田町長さんや町

の役場の人も来ていました。おばあちゃんには、町長さんから大きな賞状をもらいました。町長さんのお話が終ってから、最後にお祝いの会に参加したみんなが記念写真をとりました。おばあちゃんにはニコニコわらってとてもうれしそうでした。ぼくのおばあちゃんには、九十才まで畑で野菜を作っていたそうです。おばあちゃんは、野菜作りの名人でした。毎日畑に行って家族のためにおいしい野菜を作ってくれたので、ぼくのおいちゃんもお父さんもみんな新鮮な野菜を毎日食べて大きくなったぞ。

ラです。毎ではたらくことは、お
 ばあちゃんにとて、生きがいだ
 夫と聞いたことがありません。
 でも、今は一人で自由に歩くこ
 とができなくなつたので、老人ホ
 ームで、車のすに乗って生活して
 います。
 ぼくは、家の人といっしょにお
 ばあちゃんのところ遊びに行き
 ます。さんぶいの祭りの時はいつ
 も行きます。でも、おばあちゃん
 はばくの名前をときどきわすれて
 しまつてことがあります。
 「おばあちゃん、蓮だよ。」
 と教えてあげると、

「まだ来たの？」
 と言つて、にこにこします。あく
 手をすると、おばあちゃんの手は
 しわくちやでやわらかでした。お
 ばあちゃんは、九十才までこの手
 でたくさん野菜を作ってくれたん
 だなおと思ひました。おばあちゃん
 は、今、外に出て歩くことがあ
 まりできせん。だから、部屋の
 中でお話をしてあげたり、運動会
 や学習発表会のビデオを見せてあ
 げたりします。
 「おばあちゃんは、うれしそうに
 見ています。でも、いつの間にか
 ねむつてしまいます。おばあちゃん

んは、あまりおしゃべりしないから、あきてしまったのか、つかれて本堂にねおくなっただのかわからなけれど、安バしているような顔に見えます。

四年生になつて、福祉の勉強をしました。福祉体験では、おばあちゃんがいる老人ホームで、正しい体験とは、目かくしをして歩いてみたり、足に重りをつけて歩いたりする体験です。

目が見えないと、とても不安で一人で歩くことができません。友だちが手をつないでくれたり、アバイスの言葉を言ってもらった

り、つえで道をきくしながら歩いたりして、やっとゴールまで進みました。

また、両足に一キログラムのおもりをつけると足が重くなつて、なかなか前に進みません。あわてころんでしまつて、おき上がるのにも時間がかかりました。

さんふいの人が、お年よりは、目かあまりよくない人が多いし、体が重くなるから、すばやく動くことが大変なんだよ。と教えてくれました。

また、お年よりの人はエロンで

しまうと、ほねをおってしまう人
が多いそうです。だから、さんふ
いで働いている人たちは、お年よ
りの人がけがをしないように、やさ
しい言葉をかけてあげたり、手
をつないであげたりするそうです。
一人でどうしても歩けない人のた
めに、さんふにはいろいろな車
類の車いすもありました。車いす
は、とても便利で乗ってみるとか
いてぎでした。

ぼくは、おじ体験でお年よりの
気持ちが少しわかったような気が
しました。そして、ぼくのおばあ
ちゃんには、九十才になつてからも

畑で野菜作りの仕事をしていたな
んで、本当にすごいなあと思います
した。

ぼくは、おばあちゃんが大好き
です。だから、おばあちゃんに、
もっともっと長生きしてもらいた
いです。

ぼくは、これからもお年よりの
気持ちを考えて、やさしくできる
人でいたいと思います。

ぼくにできるボランティア

藤崎中央小学校 四年

浅利 謙信

ぼくたちは、そう合的な学習の

時間に福祉の学習をしました。福

祉体験の時間は、特別老人ホーム

さんふじにほうもんしました。さ

さんふじには、たくさんお年寄りの

人がいます。

そして、そのお年寄りの人たちが

のお世話をしている人もたくさん

います。

ぼくたちは、はじめ、さんふじ

で働いている人からどんな仕事をし

ているのか説明を聞き、さんふじ

には、いろいろなサービスがある

ことがわかりました。

まず、特別ようご老人ホームで

は、日常生活全てにわたり、が

ごが必要なお年寄りの人に、け

こうでかいてきな生活ができるよ

うにするサービスをしていること

がわかりました。

デイサービスとは、日帰りで

食事や入浴りハビリ、レクリエー

ションなどをするサービスのこと

です。

ショートステイは、家でか

ごが必要なお年寄りが、家族が病

気や旅行などの理由があるときに

一時的に家族に代わって、しせつ
にとまっつて必要なかいごをするサ
ービスです。グループホームは、
にんちしやうなびで、家での生活
がむずかしい人が家庭のようなサ
ービスを受けられます。
そのほかには、居宅かいごサ
ービスといつて、ケアマネージャー
といふ人が利用するかいごサ
ービスの予定を立てて、関係するこ
ろに連絡をするサービスもあるこ
とがわかりました。
さんふいじで働いている人は、た
くさんいます。いろいろなサ
ービスを分た人し、いろいろなサ
ービス

スをしていゝ事を知り、ここで生
活をしていゝお年寄りのために、
かんばつて働いていゝこともわか
りました。
一回目のさんふいじのほうも人を
終えてから、ぼくたち子どもにも
お年寄りの人たちのために何かお
手伝いできることはないかなあと
考えてみました。
さんふいじには、体が不自由な人
もいます。また、家族になかなか
会えない人もいます。そこでお年
寄りの人たちと一緒にできる置の
遊びをすることにした。お手
玉や、おはじき、めんこ、おり紙

だるま落しなど、道具をちて

二回目のほうも人をしました。

ぼくたちは、それぞれ自由にお

年寄りのそばによつて遊びました。

耳かとおいお年寄りには、耳のそ

ばでそつと話してあげたり、遊び

のやり方がわからない人には、や

さしく教えてあげたり、お年寄り

の人の気持ちを考えながら遊んで

あげました。とても喜んでくれま

した。おいちやんやおはあちや

んが喜んでくれるとぼくもうれし

くなりました。

ぼくたちは、最後に歌のプレゼ

ントをしました。たくさんはく手

をしてくれました。ふるさとの歌

は、お年寄りの人たちと一緒に歌

ってくれました。

お別れの時は、全員のお年寄り

の人とあく手をしました。

「ありがとう、ありがとう」

と何度も声をかけてくれる人がい

ました。

ぼくは、さんふじでいろいろな

体験ができてよかったです。さん

ふじで働いている人たちの仕事か

わが、たし、お年寄りの人たちの

ためにぼくが役に立つことができ

たので、うれしくなりました。ぼ

くはまたさんふじに行きたいです。

ポカポカで大好きな家族

藤崎中央小学校 四年

高谷 瑞希

ぼくの家は、九人家族です。ば

んごはんを食^くべる時は、全員そろ

て食^くべます。ぼくの家族は、人

数が多いのでテーブルをいつも二

つ出します。

ばんごはんのじ^やんびは、若い

おばあ^{ちゃん}ち^やんがや^やてくれます。

お母^{さん}とお父^{さん}は、仕事^がお

そいので、早く帰^ってきた時やお

休^みの日^にに手^伝います。

ばんごはんを食^くべる時は、すわ

る場所^がいつも決^まっています。

若いおばあ^{ちゃん}ち^やんとぼくは、向^か

い合^ってすわ^って、いつもおばあ

ち^やんの顔^が見^えます。

みんながよろこんで食^くべている

ようすを見て、おばあ^{ちゃん}ち^やんは、

うれしそうに見^えます。

ばんごはんをみんなで食^くべてい

る時に、ぼくは学校^であ^った話を

よくします。ぼくが話^すと一年生

の弟^もどんどん話^します。小さい

弟^{たち}もなんだかい、ばい話^すの

で、とてもにぎやかです。

ぼくの家族は、全員のたんじ^や

う日をいわうイベント^があります。

たんじ^やう日には、ケーキを買^っ

てきて、みんなそろそろ、た時に、つ
けたろうそくの火をたんじょう日
の人が消します。みんなは歌を歌
っ、ておいおいします。その後、
みんなでケーキを分けて食べます。
ケーキを食べている時は、みんな
だんかにこにこしています。ぼく
のたんじょう日がもうすぐやって
くるので、ぼくはその日が楽しめ
です。

若いおばあちゃんとおじいちゃん
は、リンゴ作りの仕事をしてい
ます。畑の仕事がいそがしい時は、
休みがありません。ぼくは、リン
ゴもぎの手伝いをします。おじい

ちゃんとおばあちゃん、
みんなが育てたり
んごを、おじいちゃん、
がわけて食べ
させてくれます。とてもおい
しいです。ぼくはおじいちゃん
リンゴを積んだトラックに乗っ
て市場にも行くのが楽しみです。市
場には、リンゴばこがびっくりす
るくらいたくさんあります。ぼく
のおじいちゃんとおばあちゃん、
育てたリンゴはどんな人が買っ
てくれるのかなあ、いつも思
います。若いおばあちゃんとお
じいちゃん、
は、畑での仕事でつかれてい
るけど、いつも夜十時ころまでお
きています。理由は、次の日の朝

飯の準備をしたり、部屋のかたづけをや、てくれているからです。
 ひいおばあちゃんには、野菜づく
 リの名人です。畑には、ぼくが大
 好きないちごをうえてくれていま
 す。ぼくは、毎年赤くなりたいち
 ごをつみ取るのが楽しみです。そ
 れから、なんとい、てもおいしい
 のは、ひいおばあちゃんが育てた
 とうもろこしです。もぎ取る時の
 パキッという音、ゆでた時のにお
 い、一口食べた時のあまさは、最
 高です。ひいおばあちゃんは、家
 族が大好きな野菜をたくさん育て
 てくれます。それから、漬けもの

ちとく意です。でも、ぼくは漬け
 ものが苦手で、あまり食べられま
 せん。ひいおばあちゃんには、
 っ大人になるまでに、食べられろ
 うようにがんばるからね。
 とやくそくしてあります。ひいおば
 ああちゃんには、にこにこあら、てい
 ます。
 お母さんとお父さんは、会社の
 仕事で遅い時もあるし、小さい弟
 たちの世話でいつも大変です。ぼ
 くがまっか、たことをすると、お
 こられる時もあるけど、やさしい
 です。
 ぼくの家族はみんなで助け合っ

て生活しているの、だからけん
 かをしません。
 ぼくたちはわる前に。
 「おやすみなさい」
 と言、てから休みます。すると、
 みんなが、
 「おやすみ」
 と言、てくれます。ぼくのふとん
 の中は、まるでこたつみたいにあ
 たたかいです。だから、毎日、
 すりねむることができます。
 朝おきると、若いおばあちゃん
 とお母さんが、朝ごはんのじ
 ゃんをしてくれています。ぼくは、
 ごはんを食って、

「い、てきます」
 と言います。すると、みんなが、
 「い、てら、し、い！」
 と言、てくれます。
 するとぼくは、寒い日も心が少
 し温かくなります。まるで、こた
 つのようなふとんに入、た時と同
 い気持ちです。
 ぼくは、ポカポカでおたか
 家族が大好きです。それから、
 家族にかんし、をしなから勉強や
 手伝いを百パーセントになしとげ
 るのを、家族と助け合、ていくの
 を目標に、がんば、ていきたいと
 思います。

に悪口を言われたり、いやな顔を

活
し
て
い
る
お
年
寄
り
が
た
く
さ
ん
い

ることわかりました。お年寄り
は、体が不自由になるので一人で
生活することが少し大変です。ず
っと一人で生活していると、こ
まごた時に相談したり、はげまし
てくれたりする人がいないかもし
れません。

ぼくたち四年生は、一人ぐらし
のお年寄りの人に、学習発表会の
前に招待状を送ることにしました。
ぼくたちの発表をみて楽しんでを
らうと、心が少し明るくなるので
はないかなと思います。みんなで温か
いメッセージを考えたり、ていね
いにイラストをかいたりしました。

当日、一人のおばあちゃんか招
待状のはがきを持って、ぼくたち
の発表を見に来てくれました。お
ばあちゃん、平田まさと君から
はがきをもらい、受付けの人に
うれしくなっていました。ま
し。

と、ここにこして話していたそう
です。
ぼくたちが出したはがきが、一
人ぐらしのお年寄りの人たちのた
めになつたと思うと、うれしくな
りました。来てくれたおばあちゃ
んには、来年も来てほしいなあと
思いました。

また、ぼくたちは福祉体験で老人ホームさんふじーに行きました。さんふじーには体が不自由なので、車いすで生活している人がいます。しせつにはいろいろな種類の車いすがありました。ぼくたちは車いすに乗ってみたい、おしてみたりして体験しました。しせつの人か、乗る人の気持ちを考えておしてあげて下さい。

と、説明してくれました。ぼくはどんな意味かなと少し考えました。いっさい乗ってみたい急におされる、と、これいのです。でも、

「出発するよ。」

と言ってくれてから、おされるとこわさは、半分でおさまります。目かくしして、歩く体験をした人たちも、友だちが手をつないでくれたり、言葉をかけてくれたりしながら、いろいろな様子をみて、車いす体験と同じだと思いました。

この体験を通して、ぼくはお年寄りが百パーセント心地のいい生活を送るために、さんふじーの人が気を付けていることを学ぶことができたような気がしました。

二回日の福祉体験で、ぼくたちはお年寄りの人たちと昔の遊びを

通して交流しました。みんなは、
 体の不自由なお年寄りの人には、
 やさしくしてお手伝いしてあげた
 り、耳の聞こえない人には、耳の
 そばで話してあげたり、一人ぼっ
 ちですわっている人のそばに行っ
 てお話をしてあげたりしていまし
 た。
 ぼくたちとの交流が、お年寄り
 にと、いい心地のよい交流だった
 のかどうか、はっきり分かりませ
 んが、最後にあくまでして帰る時
 に、なみだを流して喜んでくれた
 人がたくさんいました。お年寄り
 の気持ちがいかに少しかつたよう
 な気が

がします。
 ぼくはうれしくなりました。そ
 して、また「さんふじ」に行っ
 てみたいと思いました。
 ぼくは、教室でまた百パーセン
 トのいい心地を感じていません。残
 りのパーセントは、ぼくの心に
 あります。それは自分に勇気が持
 てなくて、発表の時など、なか
 が手を挙げられなかったり、い
 と思ふことを進んでやったりで
 ない時があります。これから目
 標は学んだ事を大切に、今回
 の体験で残りのパーセントを達
 せたいです。

